

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立諸富中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上については、校内研修部を主体とした全職員による取組を実施した。生徒の学習へ向かう態度や学習状況調査結果等に成果が表れている。 学年担当全員で実施した道徳教育や、全職員で情報共有し対応した生徒指導については、生徒や保護者による取組についてのアンケートの肯定的な回答が9割前後となっている。来年度も引き続き全職員による取組を推進する。 教育相談の充実については、教育相談部会を中心とした全職員による対応とカウンセラーや支援員との密な連携を図ったことで、不登校生徒数が昨年度より減少するなどの成果を得ることができた。引き続き来年度も重点目標として取り組む。
2 学校教育目標	「創り、つなぐ」～夢・絆・伝統～ 夢をつくる 絆をつくる 伝統をつくる
3 本年度の重点目標	<p>① 授業力向上と「望ましい学習習慣を育む学習基盤づくり」を柱として、主体的に学習に取り組む生徒の育成を目指す。</p> <p>② 自他を大切にすることと個の自律・自立を育てる生徒指導体制づくり及び道徳教育の充実を図る。</p> <p>③ 特別支援教育や教育相談の充実を図る。</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目		重点取組		最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりと、望ましい学習習慣を育む学習基盤づくり	○話し合う活動や書く活動を「積極的に取り組んだ」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 週4回のスキルタイムで基礎的・基本的な知識を定着させる問ドリル学習を行う。 一人一台タブレットの活用、学び合い、「授業づくりのステップ1・2・3」などの実践を共有し、授業力を高めていく取組を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「話し合う活動や書く活動を「積極的に取り組んだ」について肯定的な回答をした生徒の割合90%を達成できた。 スキルタイムを1年間実施し、基礎学力の底上げを図った。生徒は立腰や粘り強く学習に取り組むことができた。
	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ○「自己の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動」 ○「いじめの早期発見、早期対応体制の充実」 ○「キャリア教育を通して「将来の自分像及び目標」の明確化」 	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳の授業を通じて、心豊かに成長できている」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上 ○「いじめ防止基本方針」に基づいて、対策に取り組んだ」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上 ○「自分の進路実現に向けて努力している」に肯定的な回答をした生徒の割合75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が人権や命の大切さを認識するために、全職員による道徳授業や人権集会などを実施する。 学習の成果を共有する場として、文化発表会にて学年ごと「生き方」体験学習を行う。 生活アンケートや定期教育相談を活用し、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に努める。 キャリア教育の一環として「職場体験」や「職業人に学ぶ」「先輩(高校生)に学ぶ」を実施し、高校で活躍する卒業生や夢をもって人生を切り拓いている社会人から学ぶ機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> B A A
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ○体育活動や部活動を通して、体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ③健康の大切さを理解し、食生活に気をつけるようしている」と肯定的に答えた生徒の割合80%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○「体育活動や部活動に熱心に取り組む、体力が向上したと思う」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭科・学級活動・総合的な学習などを通じて、食生活やその課題への理解を深め、自ら解決しようとする態度を養う。 毎日の食生活改善、交通安全教育など 生徒の心身の発達段階を考慮した体育活動や部活動指導の効率化を図りながら、効果的な部活動の運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> B A 	<ul style="list-style-type: none"> 「健康の大切さを理解し、食生活に気をつけるようしている」について肯定的に答えた生徒は、92%であったが、苦手な料理を残す生徒も多く実践につながっていない。 児童生徒が加害となる事故は0件であったが被害となる交通事故は1件発生した。 「体育活動や部活動に熱心に取り組む、体力が向上したと思う」について肯定的に答えた生徒の割合は79%であった。 職員は生徒の心身の発達段階を考慮した体育活動や部活動の運営を行うことができた。 「体育活動や部活動に熱心に取り組む、体力が向上したと思う」について肯定的に答えた生徒の割合が87%目標数値を超える結果となった。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の更なる推進。○ワークライフバランスを実現するために、教職員が自己管理の中のタイムマネジメントに関わる資質・能力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●衛生・健康管理委員会を年2回以上実施する。 ○教育者として、身体的健康及び精神的健康に留意し、自分を過労しないようにする職員90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生・健康管理委員会を複数回開催し、業務効率化の具体的方策及び職員のタイムマネジメント意識向上の進捗状況等について話し合う。 「校務分掌等」の連携や情報の共有を図り、業務効率化の取組を組織で実践する。 	A

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目		重点取組		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果
○機能する生徒指導体制の充実	○生徒指導部を中心とした提案や連絡体制による組織で動く生徒指導体制の確立	○「生徒の話し合いを傾け、学年や周りの職員と連携して、生徒の心配事に対応しよう」と努力している」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会の運営を充実させることで情報を共有する。 職員研修等で職員のスキルアップを図り、問題行動の早期対応、未然防止に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒の話し合いを傾け、学年や周りの職員と連携して、生徒の心配事に対応しよう」と努力している」について肯定的な回答をした教師の割合92%であった。 いじめ防止や自死予防に関する職員研修を2回実施した。
○特別支援教育の充実	○全職員で対応する体制づくりと支援を要する生徒の指導や支援の方法の共有化	○「支援を要する生徒に対して配慮しながら指導し、情報共有することができた」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する生徒の把握や理解について、生徒指導協議会や特別支援部会を活用した情報交換を確実に進行。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する生徒について、生徒指導協議会や教育相談部会、状況に応じて特別支援学級の学級担任と情報交換を行った。また、学校生活支援委員の記録をもとに担任の先生方と支援について情報交換を行った。 生徒の支援に関する肯定的な回答をした教師の割合が92%であった。
○教育相談の充実	○生徒の変化の早期発見と全職員で対応する支援体制づくり	○「相談事があったとき、先生たちは、あなたの話を聞いてくれている」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の変化を早期に発見するために、毎月行うアンケート「自分と話そう」や定期教育相談を有効に活用する。 GR等を活用し、学年を超えた教師間の情報共有や、SCやSSW、サポート相談員との連携を確実に進行。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「相談事があったとき、先生たちは、あなたの話を聞いてくれていると思う」に対して、「よくあてはまる」「たいしてあてはまる」との生徒の回答が約88%であった。定期教育相談や「生活アンケート」だけでなく、日々の生徒の心の変化に気づき、チームで対応することが出来たことの効果だと思われる。 教育相談部会をはじめ、日頃の報告・連絡・相談をチームで行い、生徒の心の不安定さに気づき、早めに対応することができた。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学年担当全員で実施した道徳教育や、全職員で情報共有し対応した生徒指導については、生徒や保護者による取組についてのアンケートの肯定的な回答が9割前後となっている。来年度も引き続き全職員による取組を推進する。 教育相談の充実については、教育相談部会を中心とした全職員による対応とカウンセラーや支援員との密な連携を図ったことで、不登校生徒数が昨年度より減少するなどの成果を得ることができた。引き続き来年度も重点目標として取り組む。 生徒アンケート、保護者アンケート、学校関係者アンケート共に本校の教育活動に対する評価は好意的であった。全職員で指導法の工夫・改善に取り組むことを通じて、授業力の向上を図った。この点は、次年度も継続し更に発展させたい。 不登校生徒への対応では、数値的に若干の改善が見られた。外部機関とも連携して卒業後の進路実現にも力を注ぐことができた。次年度も引き続き不登校対策に力を入れて取り組む。 「地域の学校」の観点からも、学校と地域が共に健やかな生徒の育成に向かえるよう問題点を整理し、取り組みの柱を明確にして、今後の教育活動の指標を立てるよう結果を生かしていきたい。
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------